

徳島大学の就職支援への取り組み

学生自らの 就業力向上を促す

「巣立ち」プログラム

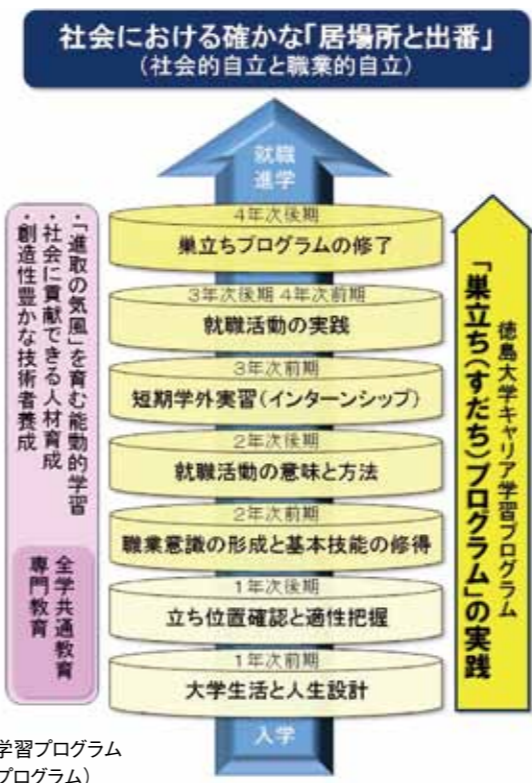


図1 キャリア学習プログラム (巣立ちプログラム)

求められる社会的・職業的自立

平成22年2月に文部科学省は大学設置基準を改正し、大学に対して教育課程内外を通じた「社会的・職業的自立に向けた指導等（キャリアガイダンス）」を制度化（平成23年4月1日施行）しました。

単なる職業教育ではなく、社会人としての基礎力を有し社会的・職業的自立が可能な人材の育成が現在の大学には求められています。

「巣立ちプログラム」とは

文部科学省は前述の大学設置基準から診断しキャリアプランを作成します。また後半は小クラスに分かれ、個別のゼミナールが実施されています。

工学部では、まず様々な職業・職種を学び、次いで各自の適性把握・基礎学力演習により、自らの能力を把握するとともに、キャリアプランやライフプランに対する基本的な視点を学び、自らのキャリアプランを作成します。

図2は「キャリアプラン入門I」の授業風景です。講師の説明をみなさん熱心に聞いています。

学生による授業評価アンケート

結果

平成23年度の「キャリアプラン入門I・II」受講者（全1年生）を対象に授業評価アンケートを実施しました。その結果、同科目の受講により、学生自らのキャリアデザインおよび社会人基礎力向上への関心が非常に高まっていることがわかりました。

「巣立ち」プログラムの今後の展開

本年度前期に、経済新聞等からの効率的な情報収集技術ならびにプレゼンテーション技術等の向上を目的とした「キャリアプランI」

準改正直後の平成22年度に大学生の就業力育成支援事業を公募し、徳島大学では総合科学部と工学部が共同で申請した「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」が採択されました。これを契機に両学部では翌23年4月より同プログラムに基づくキャリア教育を開始しました。

「巣立ちプログラム」の特徴として、①4年一貫のキャリア教育の実践、②学生の主体的な取組を促すWeb版ポートフォリオの活用、③先輩から後輩へのキャリアデザイン伝承システムの実践などが挙げられます。

「巣立ちプログラム」での学び

図1に徳島大学のキャリア学習プログラム（巣立ちプログラム）の概要を示します。

新生はまず、必修科目である「キャリアプラン入門I」（前期）および「キャリアプラン入門II」（後期）の授業を受けます。これらの科目では大学と社会の関わり（総合科学部）、技術者・企業・社会との関わり（工学部）ならび

にキャリアデザイン・適性把握等（両学部）について学びます。

2年次以降はより実践的な「キャリアプランI・II・III」および「短期インターンシップ」の選択4科目から1科目以上を履修することになります。これらの科目では、職業意識の形成と基本技能的修得、就職活動の意味と方法、学外実習、就活体験の伝承などが主なテーマとなっており、両学部合同クラスで授業が実施されます。

自らの就職活動をデザインする Web版ポートフォリオ

履修登録などで学生が利用している教務システムに、新たにキャリア学習ポートフォリオ機能を追加しました。これは、キャリアデザインノートのWeb版で、キャリア教育科目用の「学習記録」ページの他に、自らの社会人基礎力等を確認・判定できる「キャリアデザイン」ページ、「課外活動記録」ページならびに「進路・就職情報」ページなどを備えています。これを用いてすべての学生が、いつでも必要な情報を登録・確認等する

ことができ、強力な就職支援ツールとなっています。

「巣立ちプログラム」の進捗状況と外部評価

「巣立ちプログラム」は順調に年次進行しており、本年度前期に2年生用の「キャリアプランI」が開講されました。

プログラム開始1年後に外部評価委員会を開催し、プログラム内容と進捗状況等に関する11項目について評価していただいた結果、平均4.2点（5点満点）という高評価を得ました。また、同時期に第1回就業力育成シンポジウムを開催し、その時パネリストとして参加した両学部の就職内定学生から「巣立ちプログラムに基づくキャリア教育を受けていればもっと満足していく就職活動ができたと思う。」という感想が寄せられました。

「キャリアプラン入門I・II」の授業内容

以下に1年生の必修科目である①「キャリアプラン入門I」および②「キャリアプラン入門II」の授業内容ならびに学生による授業評価（平成23年度分）について簡単

に紹介します。

①キャリアプラン入門I（前期）

総合科学部では「大学と社会」をテーマとし、学部を取り巻く社会環境および大学生に求められる社会人基礎力やキャリアデザインについて講義を行います。

工学部では「技術者と社会」をテーマに、技術者を取り巻く社会環境について講義し、技術者を目指す新入生が、将来の職業について考える上で必要な素養と能力を養うことを目的とした内容となっています。

この科目では県内を中心に、13企業・機関・団体等から外部講師を招聘し、各学科に関連する授業を行っています。また、この授業を通して、徳島県内にも全国的に高いシェアの製品を持つ企業や、高度な技術を持つオンリーワン企業が数多く存在することなど、学生にとって将来を考える上で重要な「気づき」や「発見」がたくさんあります。

②キャリアプラン入門II（後期）

総合科学部では、前半で適性把握演習にもとづき、自らの適性を能力・性格などの総合的な観点か



図2「キャリアプラン入門I」授業風景

医学部栄養学科における就職支援

就職支援センター連絡会議委員(医学部)

酒井 徹 (さかいとおる)

医学部には医学科、栄養学科および保健学科があります。いずれの学科も医療専門職を目指すために、多くの卒業生は病院を中心とする医療機関に就職をします。そのため、一般企業や公務員への就職を希望する者の割合は学部全体では少ないのが現状です。

栄養学科の卒業生は、そのほとんどが管理栄養士資格を取得しますが、就職先は、一般企業、公務員、医療機関と多岐にわたっています。平成23年度の学部卒業生の就職内訳は病院・給食施設などへ管理栄養士として就職をした者10名、一般企業7名、公務員1名、大学院進学29名となっています。就職率はほぼ100%でした。

栄養学科の学生は3年次の2月より研究室に配属され卒業研究を行います。そのため、就職採用情報は学理事務より各教室を通じて閲覧されるシステムになっています。その中には、先生方が個人的に依頼された求人情報も含まれて

います。また、毎年OBによる企業説明会も適時開催しており、生のOBの声を聞くことができ、学生には好評です。

将来の人生を決めるイベントである就職に対し十分な準備および対策を行うことは重要なことです。本年度は、3年生を対象として、就職支援センターの山野特任講師に「就職を勝ち抜くために必要な事、本格的な就活で重要な教え」と題して講演をして頂きました。学生からは、「まだ3年生になつたばかりなので就職はまだまだ先だと思っていたが、話を聞いて考え直さなくてはと思った」、「エントリーシートを書く上でポイントとなる点があった」、「これからの就職活動を行う上でどんなことが重要か非常に参考になった」等々の意見が寄せられています。本学の就職支援センターと密に連絡を取りながら協力体制を築くよう努力致したいと思っています。



就職支援センターの山野特任講師による講演会



栄養学科就職関連資料の閲覧

歯学部口腔保健学科における就職状況と就職支援活動について

就職支援センター連絡会議委員(歯学部)

羽田 勝 (はだまさる)

歯学部の就職状況と就職支援活動についてご紹介させていただきます。と云っても、歯学科の学生は原則卒業後は歯科医師臨床研修制度の下で1年以上の臨床研修を受けるか、あるいは4年間の大学院博士課程に進学するかのどちらかなので、実質的に就職支援活動の対象者は口腔保健学科の学生に限られることとなります。従って、本稿においても口腔保健学科の就職状況と就職支援活動等についてご報告いたします。

本学科は平成19年4月に設置されたので、現在までの卒業生は1期生15名、2期生16名の合計31名です。数が少ないので1、2期生合わせての卒後の進路についてご報告いたします。

本学科の特徴は、卒業時に歯科衛生士と社会福祉士(選択制)の2種類の国家試験受験資格が得られることです。従って、卒後の進路も歯科分野だけでなく社会福祉

分野等にも広がっています。また、平成23年4月に設置された大学院修士課程に進学する者もいます。過去2年間においては、大学院進学者5名を除いた卒業生26名全員が就職を果たし、その内20名が歯科衛生士の道を選択し、6名が社会福祉分野・公務員等に就職しました。なお、県内の就職者は9名、県外が17名で、これは学生の県内・県外比率にほぼ準じています。

本学科の就職状況や就職支援活動の特徴をあげると、以下のようになります。

- ① 本学就職支援センターや就職相談員のご協力を得て、就職ガイダンスや個別の履歴書、エントリーシートの書き方や模擬面接などの指導を受けています。
- ② 学生数に比して学科の教員が多く、学生の就職活動に対して全教員を挙げて手厚い相談・援助が行なわれています。

③ 病院歯科を希望する学生が多いが、そもそも病院歯科が少ないことや、求人が不定期(欠員補充の場合が多い)で、採用人数も少人数で、最終的に就職が決まるのがかなり遅くなる傾向があります。

④ 一方、民間の歯科医院は歯科衛生士の求人難で、社会福祉分野も若い人の求人難であることから、学生にとってはむしろ売り手市場で就職に対する不安は比較的少ないようです。

最後に、病院歯科に就職した者の内2名が1年で離職してしまいました。個々の離職の原因は明らかではありませんが、今後はこれらの点を反省材料に就職指導に注力していきたいと考えています。

就職関連資料の閲覧と教員によるアドバイス



薬学新時代における就職支援 ～先輩からのメッセージ～

就職支援センター連絡会議委員(薬学部)

佐野 茂樹 (さの しげき)

薬剤師養成のための薬学教育の修業年限が4年から6年へと延長されたことにより、徳島大学薬学部では薬剤師養成のための6年制学科(薬学科)と、学部創立以来の「新薬の創製を目指す」という教育方針に基づいた4年制学科(創製薬科学科)が併設され、薬学新時代が幕を明けました。創製薬科学科では、卒業後に大学院薬科学教育部の創製科学専攻へと進学する学部・大学院一貫教育体制を基本とし、世界レベルの生命科学・創製薬科学に貢献し得る人材の養成が与えられません。そこで、薬剤師免許を必要としない職種への就職を目指す学生のみなさんへの就職支援の一環として、徳島大学薬学部を卒業・修了され薬剤師免

許を使うことなく活躍されている若手先輩の方々に、在学生のみなさんへ熱いエールを送ってもらおうのが「薬学部就職支援講演会」先輩からのメッセージ」です。本講演会は講義室ではなく薬学部1階のオープンスペースを会場として使用し、フレンドリーな双方向的コミュニケーションの場として開催しています。年齢的に身近な先輩の学生生活や就職活動の体験談、現在の仕事内容の説明はとも興味深く、在学生にとっては幅広い職種への理解を深めるための貴重な機会となっております。

「薬学部就職支援講演会」先輩からのメッセージ」は創製薬科学科学生の就職支援を主眼とするものですが、各種の就職ガイダンスや就職相談など、薬剤師としての就職を目指す薬科学科学生のみなさんへの積極的な就職支援も実施

しています。本年度は新たな試みとして、通常の就職ガイダンスから一歩踏み込んだ個別指導を行う「就職道場」も開催する予定です。薬学新時代における一連の就職支援が、学生のみなさんの主体的な進路選択による素晴らしい仕事との出会いの一助となり、社会人として立派に活躍されることを心より願っております。



在学生の質問に答える若手先輩の方々



アンケートを記入する在学生のみなさん

インターンシップⅡを履修して

総合科学部社会創生学科3年 幸徳 晃児 (こうとく こうじ)



インターンシップⅠでは始めに社会人とは何かを考え、次に、ビジネスでのマナーを教わり、最後に企業の方に学校で講演をしていただいてその会社でどういった業務をこなしているのかを知ることができた。講義と

なっています。次に、インターンシップⅡという講義ですが、これは実際に企業に出向き、働くということはどういうことなのか、また学生と社会人の違いが何なのかということなどを学ばせていただきました。僕の場合は、3日間と短い実習期間でしたが、身をもって社会に出るということを感じることができました。僕は市内にあるシティハウジングさんで実習をさせていただきましたが、不動産業界がいかにして利益を上げ、経営をしているのか、そういった業界研究みたいなものもできたのですが、なにより、社会人という先輩方の体験談、姿勢などを目の当たりにして、自分もアルバイトをしています。緊張感や責任感に比べものにならないほどの違いがありました。特に感じたのが、公私の区別です。仕事とプライベートをはっきりとさせなければ社会人としてやっていけないと痛感しました。

本来、インターンシップは自ら企業に出向き承認を得て実習となる流れで、1から10まで自分でスケジュールを組まなければなりません。この講義では、大学側がスケジュールなどの手続きを取り持ってくれるので、部活やバイトで忙しい人でも履修しやすい講義となっていますし、わからないことや気になることは就職支援センターで聞くことができるので、バイトと部活を両立している僕にとってはとても助かりました。

研修に参加して得たもの

薬学部2年 三河 志穂 (みかわしほ)



これまでもさまざまな製薬会社の人たちからお話を聞く機会があり、それぞれの特色がありました。エーザイではどのような考えで開発に取り組んでいるのか、また卒業生の講演会

で得るものがあると思いついてこの研修に参加しました。エーザイの紹介ビデオを見て、エーザイで働く人々が薬の開発に携わる上で患者さんを中心に考えて多くの人と関わり、一つ一つの薬を作っているのだという基本理念がわかりました。博物館では、昔の製薬道具や薬屋の復元などを見て、薬屋ひとつとっても生薬がネズミに食べられないよう天井から吊るすなど先人の苦労や努力を知り、感心しました。見学した工場内は技術の発展により製造過程はほぼ機械化され、正確で衛生的な場所であり時代とともに薬の製造から保管の仕方まで変化してきたのだと改めて感じさせられました。

講演会では、諸先生方のエピソードや学生生活をどのように過ごしてきたのかを聞き、とても参考になりました。自分のやりたいことが見つければ自ずと道は開かれていく。がむしゃらに進んでいくのではなく、悩むことも大切。自分の可能性を信じてたくさん勉強していこう。充実した一日でした。

工学部のキャリア形成

工学部機械工学科2年 大西 貴斗 (おおにしたかと)



僕らの入学時から徳島大学でもキャリア教育が始まりました。1年生のキャリア教育入門と2年生のキャリアプランⅠでは社会人基礎力、技術者倫理、ジョブリサーチ講座などで多くの

ことを学びました。これらの中でも僕が一番自分のスキルアップにつながったと思える講義は、「経済新聞の読み方」についてです。社会人として新聞から情報を得るといのは最も基本的なことですが、だからこそどの記事を読んでも、どの記事を飛ばすかの取捨選択がとても重要になってきます。

でも、これまで僕はどうやって自分にとって価値のある情報だけ得られるかがわかりませんでした。そんな時この授業で経済新聞の読み方と、情報収集の講座に出会い、その内容は目からウロコでした。その後も引き続き経済新聞を読んでいます。その時の講義で線を引き、丸を付けた新聞の切り抜きはまだ大事に持っています。

1年生からのキャリア教育科目を受講することで、皆さんが将来に社会人として働くための基礎的な力と、キャリアアップにつながるスキルを身につけることができます。